

【科目名】摂食嚥下障害学各論		【担当教員】佐藤厚
【授業区分】 専門分野(発声発語・嚥下障害)	【授業コード】 5-30-1180-0-1	(メールアドレス) <a href="mailto:a.satou@nur05.onmicrosoft.com">a.satou@nur05.onmicrosoft.com</a>
【開講時期】3年次 前期	【選択必修】必修	(オフィスアワー)
【単位数】1単位	【コマ数】8コマ	佐藤 (月～金、木曜日除く)
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) 受講時までには歯・口腔・顎・顔面領域の基本的な構造や機能、および嚥下の仕組みを理解していること。 2年次に履修した摂食嚥下障害学概論の内容を復習しておくこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 資料、講義ノートを配布・使用するが、教科書をあらかじめ読んで予習しておくこと。		
<b>【講義概要】</b> (目的) 摂食・嚥下に必要な体の構造と機能、およびそれらの器官を制御している脳のしくみを学び、口から食べることの重要性を理解するとともに、超高齢社会における摂食・嚥下機能の意義を考える。摂食・嚥下リハビリテーションの症例別展開について理解する。 (方法) 正常な摂食・嚥下のメカニズムとその障害について学び、摂食・嚥下に関する用語やその定義を確実なものとする。摂食・嚥下障害の検査診断・ケア等について、症例ごとの実践的な知識を得るとともに、S Tが果たすべき役割について明確に理解し実践できるようにする。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 摂食・嚥下の機能および障害とそのリハビリテーションに関して、幅広い知識を身につけ、臨床へ応用する能力を養う。		
<b>【行動目標(SBO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>摂食・嚥下に関与する器官の構造と機能に関して、発達や加齢変化の様子を含めて説明できる。</li> <li>摂食・嚥下障害がもたらす身体への影響について説明できる。</li> <li>摂食・嚥下機能の検査や診断について説明できる。</li> <li>摂食・嚥下障害に対する、症例別に適した訓練・リハビリテーションについて説明できる。</li> </ul>		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 倉智雅子 (編集) 「言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学」 医歯薬出版, 2013年. ¥4,752		
<b>【参考書】</b> 藤島一郎 「脳卒中の摂食嚥下障害 第2版」 医歯薬出版, 1998年 ¥4,698 日本歯科衛生士会監修 「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」 医歯薬出版, 2011年 ¥3,240		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。		

平成 26～28 年度入学者用

評価は講義終了後の筆記試験にて行う。

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成 果 発表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		80						20	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢							10	10
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営 方法		学修課題(予習・復習)		時 間 (分)			
1	摂食嚥下障害の原因と病態①	講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分			
2	摂食嚥下障害の原因と病態②	講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分			
3	摂食嚥下の検査と評価①	講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分			
4	摂食嚥下の検査と評価②	講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分			
5	摂食嚥下障害のリハビリテーション①	講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分			
6	摂食嚥下障害のリハビリテーション②	講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分			
7	臨床上の留意点	講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分			
8	症例、まとめ	講義・演習		予習・復習を必ず行うこと		30 分			

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の 3 倍)に含むべき時間を示します。